

ニホンイノシシ (学名: *Sus scrofa leucomystax*)

[ウシ目 イノシシ科]



▲2013年12月、荒島で撮影されたニホンイノシシ



▲ニホンイノシシの頭骨

イノシシは、北アフリカからユーラシア大陸に広く生息しています。ニホンイノシシは日本固有亜種で本州・九州・四国に分布しており、大きいものは体長170cm・体重180kgを超える大型哺乳類です。同じウシ目のウシ、ヒツジ、ヤギは堅い植物を消化するために複数の胃を持ちますが、イノシシは人と同じ1つの胃しか持っていないので、消化しやすく栄養価の高い植物の根茎や木の実、ミミズやトカゲなどの小動物、そして農作物を好んで食べます。

かつては狩猟対象として、また農作物を荒らす害獣として狩猟・駆除が行われ人里から姿を消しましたが、1950年頃から現在にかけて個体数の増加と分布域の

拡大が続いており、農業への被害も深刻化しています。2016年には、全国で狩猟・有害駆除により62万頭が捕獲されていますが、生息数はほぼ横ばいを示しています。

1980年頃のイノシシの分布は、30cm以上の積雪が70日以上続く地域ではほとんど確認されておらず、雪が生息を阻害する要因として考えられていました。しかし、現在では多雪地帯とされる会津地方でもその生息が確認されています。只見町でも1990年代後半より目撃情報があり、2013年12月には朝日地区荒島に仕掛けた自動撮影カメラでその姿が捉えられました。目撃件数はまだ多くはありませんが、今後の只見町での個体数増加が懸念されます。

企画展

「只見の外来生物 — その生態と影響」

と き:3月18日(月)まで開催中

ところ:ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー

講座

「外来生物をどう防ぐかー外来種問題を知るところから始めよう」

講 師:池上 真木彦 氏(国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター)

と き:2月17日(日)13:30~15:30

ところ:朝日振興センター 2階ホール(参加費/無料)

詳しくは、
只見町プラセンター
までお問い合わせ
ください

只見スキー場でオープン式

12月21日、只見スキー場のオープン式が現地で行われ、関係者など約30名が出席しました。式では、施設を運営する会津ただみ振興公社社長の菅家町長が「今季のリフト営業は22日開始予定でしたが、雪不足のため降雪があるまで延期いたします。利用者の安心・安全をモットーに取り組んでいきたい」とあいさつし、安全を祈願し、齋藤邦夫町議会議長の音頭で乾杯が行われ、関係者のテープカットでスキー場のオープンを祝いました。スキー場内のレストランは既に営業を始めています。



▲テープカットでオープンを祝う関係者の方々